



3月下旬以降、気温が高めに推移したことから平年に比べ10日程度早く展葉日を迎えました。しかしその後、降雪や低温の日が続いた事から生態がやや停滞しています。そのため、生育ステージと薬剤散布のズレが生じないように開花直前散布との間に特別散布を行うように準備しましょう。また、展葉1週間後～落花20日後頃までは黒星病の「重点防除時期」となることから、散布量、散布時期、散布間隔を守り感染を防ぎましょう。

## 1. りんごの生態 → 平年に比べ10日程度早めに推移しています！

品種	芽出し当時			展葉日			開花日			備考	
	管内	和徳	藤崎	平年	和徳	藤崎	平年	和徳	藤崎		平年
つがる		4/3	4/4	4/15	4/11	4/12	4/19	(4/30)	(5/1)	5/8	和徳管内：津賀野地区 藤崎管内：五林地区 を観測しています。
ジョナ		4/2	4/1	4/13	4/4	4/4	4/16	(4/29)	(4/29)	5/7	
王林		4/1	4/1	4/13	4/3	4/4	4/16	(4/28)	(4/28)	5/6	
ふじ		4/3	4/4	4/15	4/8	4/8	4/18	(5/1)	(5/1)	5/9	

平年値は当組合生観圃平均

## 2. 薬剤散布 → 生態の進みと散布間隔を考慮して、開花直前の前に特別散布を！

今年の「展葉1週間後」の散布からふじ開花までを考慮すると、生態と散布時期にズレが生じる事から、「開花直前」散布の前に特別散布を行い、生態と薬剤散布タイミングを合わせましょう。

また、黒星病菌は降雨とともに飛散します。例年、4月下旬から孢子飛散量が多くなる事から散布量をしっかり守り降雨前散布を心掛けましょう。

散布量	散布時期	対象病虫害	基準薬剤及び調合順序	1,000ℓ当りの薬量
1 展葉1週間後 400L/10a	4/15～16	モニリア病・腐らん病 ハダニ類 キンモンホソガ・ギンモンハモグリガ	精製マシン油(97) 200倍 ズバンDF 3,000倍 ペフラン(液) 1,000倍	5ℓ 2袋(334g) 2本(1ℓ)
<b>特別散布</b>	<b>4/23～24</b>		<b>※ペフラン(液) 1,000倍</b>	<b>2本(1ℓ)</b>
2 開花直前 500L/10a	5/1～2 (開花に合わせて)	モニリア病・黒星病 ハマキムシ類	カナメ(F) 4,000倍 カスケード(乳) 4,000倍	1本(250ml) 1本(250ml)
3 落花直後 500L/10a	5/11～12頃 (開花直前から10日後)	黒星病・斑点落葉病 ミダレカクモンハマキ リンゴコカクモンハマキ	ミギワ(F) 4,000倍 チオノック(F) 500倍 カスケード(乳) 4,000倍	2本(250ml) 1本(2ℓ) 1本(250ml)

### 今年の(特別)散布ポイント

- ・「展葉1週間後」散布からふじの開花までの間が2週間程度空くことから、間に特別散布を行いましょう。
- ・特別散布は、できるだけ降雨前のタイミングに行うようにし、黒星病感染を防ぎましょう。
- ・落花20日後頃までは、黒星病防除の重点防除時期となりますので、降雨予報や孢子飛散量の最新情報を確認し、感染を防ぐよう防除を徹底しましょう。

## 3. 霜害対策 → 今年は生態が早いことから、防霜資材の準備をしておきましょう！

晴天無風で前日の午後7時の最低気温が6度以下だと、霜の降りる可能性が高まります。生態が早い年ほど凍霜害に遭いやすくなるため、事前に防霜資材を準備しておきましょう。防霜ファンを設置している園地では、始動温度を2℃に設定しておきましょう。

生育ステージ	発芽直前	発芽期	展葉初期	花蕾露出期	花蕾着色期	開花始	満開期	落花期
安全限界温度	-3.5	-2.2	-2.2	-2.1	-2.0	-1.5	-1.5	-1.7

### < 中央地区営農係 >

- 藤崎支店 神 幸人 (090-6220-9279)  
鳴海 清志郎 (080-9335-0829)  
佐藤 琉乃介 (090-7529-5883)
- 和徳支店 佐藤 慎 (090-3753-6333)
- 中央支店 泉 荘 (080-6011-5366)

営農関係でのご質問・相談等ございましたら、担当者へ連絡下さい！